

平成 25 年 9 月 10 日

平成 24 年度人文学類授業アンケート報告書

人文学類 FD 委員会

平成 24 年度人文学類授業アンケートは、人文学類専任教員による人文学類授業で受講者が 20 名以上であった 25 名の教員による 33 の講義系科目について集計を行い、今後の授業改善に生かすための情報の整理を行った。演習科目や実習科目を含めた全 262 の授業の内の 48 授業が該当した。この内の 33 授業で実施され、実施率は 68.8%であった。

授業アンケートは、授業の最終回または試験時に講義担当教員が用紙を配布・回収し、学務係を通じて集計されている。アンケートは無記名であり、出席率、予習・復習、シラバスの参考度、授業のスピード、参考資料の適切度、授業水準の期待達成度、授業への興味、知識・視野拡大、について 4 件法または 5 件法で回答する他に自由記述欄が設けられている。回答の度数分布と平均値、自由記述欄の内容、および設問間の相関係数については、担当教員にフィードバックされている。

【出席率】

- 平均 3.97 (最高 4.42, 最低 3.47)
- 皆出席 : 5 ポイント, 1~2 回欠席 : 4 ポイント, 3~4 回欠席 : 3 ポイント, 5 回以上欠席 : 2 ポイントとして集計

出席率に関する回答は、全授業の平均で 3.97 ポイントであった。最も高かった授業で平均 4.42, 最も悪かった授業で平均 3.97 ポイントであり、すべての授業において出席率は高かったといえる。回答の選択肢が欠席数ではないため単純な計算はできないが、欠席数が 2 回以内である傾向がうかがえる。最も出席率が低かった授業においても、皆出席が 36.17%, 1~2 回欠席が 49.81%, 3~4 回欠席が 17.02%, 5 回以上欠席が 0%であり、単位取得のための最低出席数が守られていることや、欠席数が全体に少ないことが確認された。

【予習・復習】

- 平均 1.70 (最高 2.98, 最低 1.04)
- 3 時間以上 : 5 ポイント, 2 時間以上 3 時間未満 : 4 ポイント, 1 時間以上 2 時間未満 : 3 ポイント, 0.5 時間以上 1 時間未満 : 2 ポイント, 0.5 時間未満 : 1 ポイントとして集計

1 回の授業あたりの予習・復習では、多くの授業ではあまり予習・復習が行われていないことが示された。予習・復習の評価については文学・語学系等の授業、あるいは特定の教員の授業で高くなっており、予習・復習が求められる特定の授業においてのみ行われていることが推察される。

講義系科目についてどのような予習復習が必要か議論の上で今後の対応を検討する必要があると思われる。なお、本アンケートは講義系科目においてのみ行われているため、演習系科目の予習・復習時間は含まれていない。

【シラバスの参考度】

- 平均 3.74 (最高 4.27, 最低 2.86)
- 大変参考になった : 5 ポイント, ある程度参考になった : 4 ポイント, あまり参考にならなかった : 3 ポイント, 全く参考にならなかった : 2 ポイント, 見ていない : 1 ポイントとして集計

シラバスの参考度については、全体の平均は 3.74 ポイントであるが、「ある程度参考になった」を 4 ポイント、「あまり参考にならなかった」を 3 ポイントとして評価していることから、3.5 ポイントを中間点として見なすと、全 33 の授業のうちの 31 の授業については平均的な評価を得ているが、2 つの授業について平均が 3 ポイント前後であり、特に低い評価が示された。シラバスの活用に関して学類としての最低レベルの底上げが必要であると考えられる。

【授業の理解度】

- 平均 3.41 (最高 3.94, 最低 2.78)
- よく理解できた : 5 ポイント, ほぼ理解できた : 4 ポイント, あまり理解できなかった : 3 ポイント, 全く理解できなかった : 2 ポイントとして集計

授業の理解度については、全体の平均は 3.41 ポイントであるが、「ほぼ理解できた」を 4 ポイント、「あまり理解できなかった」を 3 ポイントとして評価していることから、3.5 ポイントを中間点として見なすと、全 33 授業中の 13 の授業だけが 3.5 ポイントを超えており、全体としては必ずしも肯定的な評価を得ているとは言えない結果となった。

統計的分析では「授業の理解度」には、授業の理解度には「授業への興味」や「参考資料の適切度」が影響することが示された。これらの視点を含めた授業改善が今後の課題であると考えられる。

【授業のスピード】

- 平均 4.59 (最高 4.91, 最低 3.71)
- 適切であった : 5 ポイント, 「やや速すぎた」または「やや遅すぎた」 : 3 ポイント, 「速すぎた」または「遅すぎた」 : 1 ポイントとして集計

授業のスピードについては全体の平均が 4.59 ポイント、最も評価の低かった授業でも 3.71 ポイントとなり、概ね適切であるとの評価が得られた。低評価は主に授業のスピードが速いと評価された結果であった。予習・復習課題の設定などと合わせて、学生の理解度に応じた授業スピードの調整が必要であると考えられる。

【参考資料の適切度】

- 平均 4.01 (最高 4.67, 最低 3.53)
- 十分適切であった : 5 ポイント, ほぼ適切であった : 4 ポイント, あまり適切でなかった : 3 ポイント, 全く適切でなかった : 2 ポイントとして集計

参考資料の適切度については全体の平均が 4.01 ポイントであり, 概ね適切であると評価されているようである。3.5 ポイントを肯定的な評価と否定的な評価の中間点として見なすと, 最も評価の低かった授業でも 3.53 ポイントであり, すべての授業がどちらかと言えば肯定的な評価を受けた。前述のように, 「参考資料の適切性」は「授業の理解度」に影響することが示されたことから, 各授業における参考資料のさらなる洗練が効果的であると考えられる。

【授業水準の期待達成度】

- 平均 3.63 (最高 4.28, 最低 3.08)
- 期待以上に高かった : 5 ポイント, やや高かった : 4 ポイント, 期待通り : 3 ポイント, やや低かった : 2 ポイント, 低すぎた : 1 ポイントとして集計

授業水準の期待達成度の評価は全平均が 3.63 で, 最も評価の低い授業でも 3.08 ポイントを確保しており, 期待された水準を確保できていることが示された。「授業水準の期待達成度」には, 「授業への興味」が影響する他に, 「授業の理解度」と負の関連が認められた。この結果は, やや解釈が難しいが, 理解の難しい高度な内容で興味を持てる授業ほど期待に対する達成度の評価が高かった可能性を示すと考えられる。

【授業への興味】

- 平均 3.86 (最高 4.45, 最低 3.36)
- 非常に持てた : 5 ポイント, まあ持てた : 4 ポイント, あまり持てなかった : 3 ポイント, 全く持てなかった : 2 ポイントとして集計

授業への興味については, 全体の平均は 3.86 ポイントであるが, 3.5 ポイントを中間点として見なすと, 全 33 授業中の 29 の授業が 3.5 ポイント以上となり, 概ね適切な評価を得ていることが示された。統計的分析では, 「授業への興味」には, 「授業の理解度」や「知識・視野の拡大」が影響することが示された。これらの視点に基づく改善が授業に対する興味の向上に対して効果的であると考えられる。

【知識・視野拡大】

- 平均 4.09 (最高 4.46, 最低 3.31)
- 非常にそう思う : 5 ポイント, まあそう思う : 4 ポイント, あまり思わない : 3 ポイント, 全く思わない : 2 ポイントとして集計

「知識・視野拡大」については, 全体の平均は 4.09 ポイントであり, 概ね高評価を受けた。3.5 ポイントを中間点として見なすと, 全 33 授業中の 32 の授業が 3.5 ポイント以上となり, どちらかといえば肯定的な評価を得たことが示された。統計的分析では, 「知識・視野拡大」には, 「授

業スピード」および「授業への興味」が影響することが示されたことから、これらの視点に基づく改善が効果的であると考えられる。

まとめと今後の課題

- 「出席率」と「授業のスピード」については良好な評価を得た。
- 「参考資料の適切度」、「授業水準の期待達成度」、「授業への興味」、「シラバスの参考度」、「知識・視野拡大」については、概ね肯定的な評価を得た。引き続き、授業水準を確保するための取り組みが必要である。
- 「授業の理解度」については過半数の授業が中程度よりも否定的な傾向の評価を受けた。ただし、評価項目が、よく理解できた（5 ポイント）、ほぼ理解できた（4 ポイント）、あまり理解できなかった（3 ポイント）、まったく理解できなかった（2 ポイント）となっていたことから、「どちらかといえば肯定的な評価」を表す表現として「ほぼ理解できた」が適切ではなかった可能性がある。評価項目の適切性については「期待の達成度」についても指摘があった。すなわち、期待以上に高かった（5 ポイント）、やや高かった（4 ポイント）、期待通り（3 ポイント）、やや低かった（2 ポイント）、低すぎた（1 ポイント）として集計されているが、授業に対する評価としては期待通りであればよいのであり、「期待よりも高い」のは「当初の期待が低かった」というネガティブな意味かという質問が学生から寄せられたとの報告があった。授業改善の取り組みと合わせて、授業を適切に評価するための評価項目の修正が必要であると考えられる。
- また、「予習・復習」については多くの授業において低い評価を受けた。一方で、今回のアンケートは講義系科目のみを対象としたものであり、演習科目の予習や実習系科目のレポート作成には相当量の学習時間が充てられていることが推定される。また、今回の授業アンケートは全 262 授業の内の 12.6%の対象授業に関する結果のみを反映したものである。今後、演習・実習系科目や少人数授業へも実施対象を拡大し、人文学類の各種授業全体での評価を進める必要がある。
- 今回の分析対象となった 48 の授業におけるアンケートの実施率は 68.8%に留まった。未実施の授業の評価は実施授業と同等であるのか、それとも未実施授業の中に何らかの問題が含まれているのかは今回の分析からは明らかではない。授業評価アンケートの実施の徹底についても検討する必要がある。
- 今回の分析では、準専任教員・非常勤講師による授業と人文学類専任教員が他学類向け授業として開講したものを除いた人文学類専任教員による講義系科目のみを対象とした。これは人文学類教員の授業改善のための基礎資料とすることを目的としたためであったが、「人文学類が提供する授業の質」という点では、準専任教員・非常勤講師による授業についても分析対象とすべきであるという意見が寄せられた。授業評価の活用法に関する環境整備と合わせて、このような取り組みを進めていく必要がある。